



名張市学校図書館だより 小学校版 平成二十七年冬休み直前号 発行：教育センター

時間を作って読書を!

いよいよ冬休みがやってきます。十六日間の休みですが、年末は大そうじ、年始は初詣など、あつという間に日が過ぎていきます。ゆっくりできる時間があっても、ついついテレビやゲームでダラダラと過ごしがちです。時には好きな本を手にとり、読書の時間を作ってみませんか?きつと外は寒くても、心や体はポッカポカになりますよ!

1回10分、1日3回のんびりすると...
10×3=30分
30分ということは、朝の読書の時間の3倍もある...!



時間をうまく使って、たくさん本を読みましょう!

「クリスマス」がテーマの本を紹介します。



クリスマスといえばサンタクロース。外国では、サンタさんのために「ありがとう」の気持ちをこめてクッキーとミルクを置いておくそうです。絵本の「さむがいのサンタ」(作:レイモンド・ブリックス 発行:福音館書店)にもクッキーとミルク、ジュースやお酒を用意してあるシーンがあります。ミルクが減っていたりクッキーが食べられたりしていたら、サンタクロースが来た証拠になるそうです!

今回のおしらせ
●クリスマスの本紹介
●そうじをしよう!

【まりーちゃんのくりすます】
作:ワッワーズ 岩波書店
まりーちゃんは、ひつじのぱたぼんに、「クリスマスにはサンタさんが木のくつのなかにプレゼントを入れてくれる」というお話をします。でも、木のくつをもっていないぱたぼんはプレゼントをもらえないと思い...

【おおきいつりーちいさいつりー】
作:パート・バリ 大日本図書
おやしきに届いた大きなツリー。ちょっと大きすぎたので、先っぽを切りました。先っぽは小さいツリーになりましたが、かざるとちょっと大きかったので、また先っぽを切りました。そして切った先っぽは...?

【賢者のおくりもの】
作:オー・ヘンリー 富山房ほか
賢い夫婦のジムとデラは、クリスマスなおくりものをかうお金もありません。しかし、それぞれ大切にしている物を持っていました。ジムは代々伝わる金時計、デラは長くて美しいかみの毛です。ふたりは、それぞれ大切なものを売って、おくりものをかってきますが...

【サンタクロースっているんでしょうか?】
作:ニューヨーク・物新聞「社説」 偕成社
アメリカの新聞社に「サンタクロースっているんでしょうか?」という手紙が届きました。差出人は8歳の女の子。この小さな読者の質問に、新聞社は真剣に答えました。「サンタクロースはいるのです。」と。100年以上たった今でも、クリスマスになると話題になるお話です。



きれいになると気持ちいい! そうじをしよう!



平成25年12月の「としょだより」でもそうじの話をしました。年末といえは「大そうじ」。みなさん、そうじは好きですか？苦手な人もいますが、部屋はきれいな方が気持ちいいですよ。きちんと片づいたきれいな部屋で、あたたかい飲み物でもいただきながら、お気に入りの本を読む…。年末のいそがしい時期だけど、少しの時間でもゆったりと過ごせるといいですね。そんな時間が過ごせるように、思わずおそうじをしたくなるような本を紹介しします。

【ぐりとぐらのおおそうじ】

作：なかがわ りえこ 福音館書店

「はるのにおい！」ぐりとぐらが窓を開けると、寒い冬が過ぎて、春が来ていました。ぐりとぐらの家はほこりだらけ。でも、そうじ道具はポロポロで使えないものばかり。『ないなら作ればいい！』とばかりに、穴のあいたセーターや、やぶれたズボンを着て、そうきんになってろうかをすべるぐり。シャツやタオルをたばねて、ほうきとはたきになったぐら。めんどろな犬そうじも、ぐりとぐらの手にかかれば、たちまち楽しくなってしまう！

【おさらをあらわなかったおじさん】

作：フィリス・クラジ ヲフスキー 岩波書店

おいしいごちそうを作って食べるのが大好きなおじさん。ところが、食べ終わったころにはくたびれてしまって、おじさんは後片づけがイヤになります。ぜんぜんおさらを洗わないので、どんどん汚れたおさらがたまっています。とうとう、家中汚れたおさらでいっぱい！きれいなおさらがなくなったおじさんは、汚れたおさらをトラックにのせます。最後は、おさらが全部きれいになるのですがいったいおじさんはどうやって、たくさんのおさらをきれいにしたのでしょか？

【そうじのひみつ】

漫画：鳥飼 規世

学研パブリッシング コミュニケーション事業室

「そうじなんて…」と思っている人はぜひ読みましょう。毎日そうじをするわけ、正しいそうじ方法など、そうじの「なぜ？」が解決できます。『そうじは上から下へ』『端から真ん中へ』が基本！きちんとやっているつもりでも、ごみやほこりが残っていることはありませんか？正しいそうじ方法を覚えてやってみれば、必ずきれいになります。きれいになれば、そうじが楽しくなれます！さっそく次のそうじから使えますね。

【世界のゆうれい話】

編：白木 茂 偕成社

この中の『ゆうれいの出る家』が、そうじをしたくなるお話です。若い学者が住んでいるお屋敷は、うすぐらくてじめじめしていて、ゆうれいがたくさん住みついていた。学者はゆうれいに仕事のじゃまをされるのがいやで、ある女の人に、ゆうれい退治を頼みます。その方法とは、何と『そうじ』。窓をあけて、たっぷりお日さまの光を入れ、部屋のすみすみまできれいにします。ゆうれいたちは墓場に逃げていきますが…最後には？

学校図書

読者の

へんしゅうこうき 編集後記

苦手なことをするとき、まず簡単なことから始めてみましょう。たとえば、おそうじでゴミを拾うことから始めると、だんだんやる気が出てきてだんだんやらないところまで片付け始めるかも…。こんなふうに、苦手なことで簡単なことから始めれば、意外とできるものです。読書が苦手ならまず絵本から、勉強が苦手ならまず簡単な問題からやってみましょ